

仙台藩の宗教政策

菅野 正道

はじめに

仙台藩や仙台北下の寺院・神社については、「伊達家の宗派は臨済宗」「北山五山」「北山や新寺小路の寺町や大きな神社の配置は仙台北下の防衛ラインとしての性格がある」「仙台北下の寺社配置には呪術的な意味がある」などと言われることがある。しかし、その多くは事実誤認や歴史的根拠なくオカルト的な思想によって主張されているものであり、歴史的事実とは言い難い。伊達政宗や仙台藩を含めて、戦国時代の領主、江戸時代の大名にとって、宗教政策は領地を治めるための最重要施策の一つであり、その具体的な状況を知ること、それぞれの大名の統治や地域の歴史を知る上で欠かせないテーマである。今回は仙台藩の宗教政策の概要を紹介する。ただし修験については研究課題が広範にわたるため、今回は割愛した。

1. 伊達五山

「伊達五山」とは、伊達氏第4代当主の政依が京都の東福寺から臨済宗の高僧慧雲を招いて弘安9年(1286)以降に伊達郡に建立したと伝える東昌寺・満勝寺・光明寺・観音寺・光福寺の5つの禅宗寺院を指すとされる。

- ・ 東昌寺 伊達氏4代政依の菩提寺 伊達市梁川町字鶴ヶ岡(梁川高等学校付近)※1
- ・ 満勝寺 伊達氏初代朝宗の菩提寺 桑折町下万正寺※2
- ・ 光明寺 朝宗夫人結城氏の菩提寺 伊達市国見町光明寺
- ・ 観音寺 伊達氏3代義広の菩提寺 桑折町万正寺、または国見町徳江
- ・ 光福寺 義広夫人の菩提寺 桑折町興福寺

※1 南北朝時代には、足利氏によって陸奥国の安国寺(南北朝の争乱での戦死傷亡者を弔い、後醍醐天皇の冥福を願うために国ごとに置かれた寺院)に指定された。

※2 満勝寺の故地と伝えられる福島県桑折町の下万正寺遺跡から、鎌倉時代の瓦(鎌倉の永福寺※3 創建期と同じ文様のもの)が出土し、弘安年間よりも古い時代に関東武士と関係の深い寺院(禅宗ではなく、おそらく密教系)が造営されていたことが判明した。

※3 永福寺は源頼朝が奥州藤原氏追悼のために建久3年(1192)に創建した寺院で、中尊寺の二階大堂(大長寿院)を模したことから「二階堂」とも称され、当時の鎌倉では鶴岡八幡宮・勝長寿院とともに三大寺社とされた。

【参考】「五山」とは

- ・ 禅宗で最高寺格の五寺(岩波書店『広辞苑』第六版)
- ・ 南宋から移入した官寺制度で、朝廷や幕府が住持を任命する最高の禅宗寺院5寺のこと。北条氏による鎌倉五山の制は、建武政権により京都本位に改められ……その後1380(康暦2)に鎌倉五山・京都五山が定められた(角川書店『日本史辞典』)
- ・ 「伊達五山」や後出する「北山五山」は、地域における通称・俗称であって、仙台藩の宗教政策に位置付けられた呼称ではない

2. 中世における伊達氏と仏教

○伊達氏と禅宗寺院

- ・東光寺（曹洞宗） 応永年間（1400 年前後）に、伊達氏宗が父母の菩提を弔うために刈田郡湯原（宮城県七ヶ宿町）に創建
- ・輪王寺（曹洞宗） 嘉吉元年（1441）、伊達持宗が祖母の蘭庭尼（伊達政宗正室紀氏）の菩提を弔うため、伊達郡梁川（福島県伊達市）に創建
- ・瑞龍院（曹洞宗） 享徳2年（1453）、伊達持宗が開基となり、出羽国下長井荘高玉（山形県白鷹町）に創建。置賜最大の曹洞宗寺院で、勅願所ともなる
- ・松音寺（曹洞宗） 長享元年年（1487）、伊達尚宗が亡父成宗の菩提を弔うために、伊達郡小坂村（国見町小坂）に創建。後に伊具郡丸森（宮城県丸森町）に移る
- ・昌伝庵（曹洞宗） 永正3年（1506）、伊達尚宗が三男久松丸の菩提を弔うために、米沢に創建。後に伊達植宗の庶子玄蕃丸の菩提寺ともなる
- ・陽林寺（曹洞宗） 永正13年（1516）、伊達植宗が開基となり、信夫郡小田（福島市）に創建。
- ・大林寺（曹洞宗） 天文元年（1532）に伊達植宗が開基となり、出羽国下長井荘鮎貝（山形県白鷹町）に創建
- ・泰心院（曹洞宗） 永禄10年（1567）、伊達晴宗が母台心院（伊達植宗正室蘆名氏）の菩提を弔うために、米沢城外に創建
- ・覚範寺（臨済宗） 出羽国長井荘夏刈村（山形県高島町）の古寺。伊達輝宗が元亀3年（1573）に再興
- ・資福寺（臨済宗） 出羽国長井荘夏刈村に移った後に荒廃した伊達五山の観音寺を、伊達輝宗が元亀3年（1573）に再興し、改名
- ・宝積寺（曹洞宗） 天正5年（1577）に伊達晴宗の菩提寺として信夫郡船場（福島市）に創建
- ・光寿院（曹洞宗） 天正7年（1579）、伊達晴宗正室の岩城氏久保姫が信夫郡杉妻（福島市）に創建した慶昌院が、後に光寿院と改称
- ・妙心院（曹洞宗） 天正14年（1586）、片倉喜多のために、伊達輝宗正室の最上氏義姫が開基となり、米沢に創建
- ・寿徳寺（曹洞宗） 天正13年（1586）10月、伊達輝宗が死去した際、その遺骸は信夫郡佐原村（福島市）の寿徳寺で荼毘に付された。この寿徳寺は16世紀の創建とも伝えるが、詳細は未詳。後に政宗とともに岩出山、仙台と移り、仙台城下で改めて伊達輝宗を開基として創建されたという。なお佐原には寿徳寺を継承したという慈徳寺（曹洞宗）がある

○伊達氏と関連のある禅宗以外の主な寺院

- ・遍照寺（真言宗） 伊達氏初代の朝宗が常陸国中村に創建し、その後、出羽国下長井荘宮（山形県長井市）を経て仙台に移る ※ 栃木県真岡市の遍照寺（真言宗）が関連するとも伝える
- ・龍宝寺（真言宗） 伊達氏初代の朝宗が常陸国中村に創建し、天文年間（1532～1555）に伊達郡梁川、その後、米沢、仙台と移り、伊達氏の祈禱所として重んじられる
- ・良覚院（真言宗） 伊達氏初代の朝宗に従って伊達郡に移った修験者日林が祖と伝える。その後、伊達氏に従って、米沢を経て仙台に移る 寺伝
- ・阿弥陀寺（時宗） 伊達氏4代政依が奥州巡錫中の一遍に帰依し、弘安3年（1280）に一遍を開山として創建。その後、上長井荘を経て、2代藩主忠宗の時に仙台に移ったという

- ・桑折寺（時宗） 伊達氏から分家した桑折氏の菩提寺として、永仁5年（1297）に伊達郡桑折（福島県桑折町）に建立。桑折氏の当主は戦国時代に至るまで、代々時宗の信者だった
- ・仏眼寺（日蓮宗） 康永2年（1343）、日蓮宗に帰依した伊達基宗が伊達郡笹木野村（福島県笹木野）に建立。江戸時代には仙台に移る
- ・千手院（真言宗） 永享年間（1429～40）に伊達郡梁川に建立、後に仙台に移る。亀岡八幡神社の別当として、また伊達氏の祈禱所として重んじられる
- ・観音院（真言宗） 高野山の宿坊。戦国時代以降、伊達氏の歴代当主の供養が行われ、伊達氏家臣でもここで先祖供養する者が多くいた
- ・定禅寺（真言宗） 永正年間（1504～20）に創建と伝える。米沢を経て仙台に移り、龍宝寺と共に伊達氏及び仙台藩の祈禱所として重んじられる。

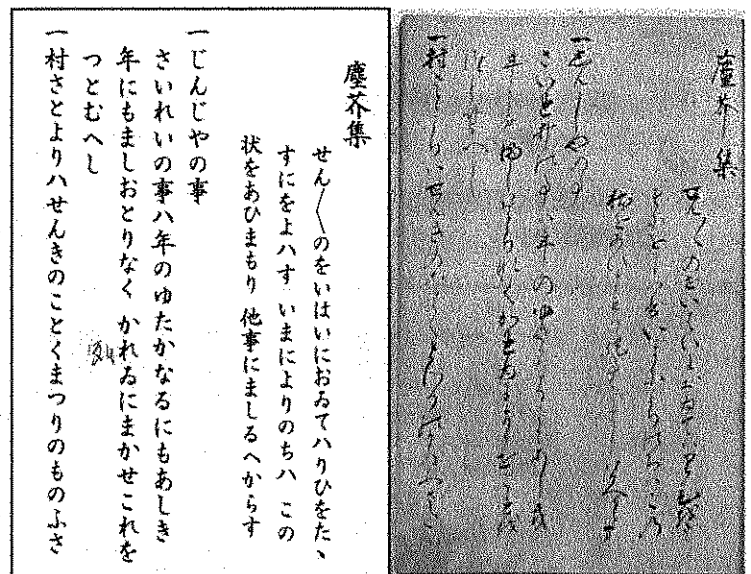
こうした戦国時代以前における伊達氏と寺院との関係には、以下の特徴が指摘できる。

- ・「伊達五山」と称される寺院以外にも、伊達氏は曹洞宗や真言宗の寺院を多く造立している。
- ・とくに、室町時代から戦国時代にかけて建立した寺院は曹洞宗が中心になっている。

- ・また、密教系では真言宗との関係が深く、先祖供養の面では高野山が大きな役割を果たしている。

- ・天文5年（1536）に伊達植宗（政宗の曾祖父）が制定した分国法「塵芥集」は、神社や寺院に関する規定十数箇条（＝全条文の約1割）を冒頭に配置する。法律の冒頭に寺社に関する規程を配するのは、鎌倉幕府制定の「御成敗式目」にも見られるもので、為政者たる武士が寺社政策を統治の上で大変に重要視していたことを象徴的に示している。

「塵芥集」（仙台市博物館所蔵）の冒頭部分



3. 城下建設と重要寺社の造営

- ・慶長6年（1601）に開始された仙台城と城下町の建設が数年で一段落すると、伊達政宗は次の重要施策として、寺社の造営に着手 **＝ 領国を統治するうえでの最重要課題としての位置付け**

慶長 7 年	仙台城下同心町に亀岡八幡宮の仮宮を造営
慶長 8 年	仙台城下に勝軍地藏を祀る堂を造営（＝元寺小路の愛宕神社→後に向山に移転）
慶長 9 年	松島の五大堂の造営、円福寺の再建に着手（＝瑞巖寺） 重要
この頃	藩政の最高執行機関として「六奉行制」を開始 領内の新田開発に本格的に着手
慶長 12 年	塩竈神社、大崎八幡宮、国分寺薬師堂の造営
この頃	中田に奥州街道の宿場町を建設
慶長 13 年	家臣の知行割を実施
慶長 14 年	松島瑞巖寺の造営
同 年	仙台城下大橋の建設に着手
慶長 15 年	仙台城大広間の造営
慶長 17 年	長町に奥州街道の宿場町を建設
慶長 18 年	慶長遣欧使節出帆

- ・この時に政宗が造営に力を入れた寺社は、いずれも奥羽を代表する寺社であった。

松島＝奥州随一の霊場 塩竈神社＝奥州一宮 国分寺＝律令政府が国ごとに建立
大崎八幡宮＝奥州探題大崎氏の守護神)

⇒ 平泉藤原氏の後継者、そして奥州探題であること、また海外に対しては「奥州王」を自称した伊達氏にとって、これらの寺社の再興は、自己の政治的正統性を示すものとして重要な意味をもっていた

- ・上記した寺社以外でも、伊達氏と古くから関係のあった禅宗寺院や密教系の寺院は、仙台北下の建設時に伊達氏の援助を受けて堂宇の造営を行ったものと推定される。しかし、仙台北下の寺社の多くは、江戸時代にしばしば発生した火災によって焼失→再建を繰り返したため、城下建設時の状況はほとんど分からない。

⇒ 仙台北藩が藩の経費で建築・修理する建物の図面を集めた「御修復帳」には龍宝寺・定禅寺・寛範寺・東昌寺・輪王寺・光明寺・満勝寺などの図があることから、これらの寺院は仙台北城下への移転時にも伊達氏（仙台北藩）の支援を受けたものと思われる。

4. 仙台北藩の寺院統治

○寺格

- ・仙台北藩は、寺院の由緒や藩・伊達氏との関わりなどによって、領内の寺院を、御一門格（「十七ヶ寺」と称されることもあった）、御盃頂戴格、着座格、御召出格、にランク付けした寺格を定めた。
- ・寺格の成立は江戸時代中期と推定され、御一門格はほぼ固定していたが、御盃頂戴格以下は、藩や伊達家との関係の変化、住職の処罰や失火などの事由によって変動することがあった。

於国元諸士諸寺院会釈之事

（十七ヶ寺ト号シ、昔より我等家ニ而ハ、別而祈願所・菩提所、外ニ結構ニ会釈申候寺院御座候、其外ニも順右十七ヶ寺並ト申寺院一両寺有之候、是ハ何れも由緒有之寺院共ニ御座候、乗輿も一門並ニ詰門迄仕、諸事之会釈結構ニ、一門衆より一段隔心あしらひ申候、公儀之御寺故、仙台北院座上ニ而、次ニ寛宝寺・定禅寺、千手院等ニ而御座候、菩提所ハ瑞鳳寺・瑞鳳寺・寛範寺・輪王寺・東昌寺・満勝寺・保春院・大年寺・万寿寺等之類ニ而候、其外、国分寺・法蓮寺・資福寺等ハ国ニ付候大事之寺柄故、家ニ附候祈願所ニハ無之候得共、十七ヶ寺之内ニ入、同然ニ会釈申事御座候、此外ニも有之、於国元被相尋、年始之規式帳ヲ御覽候得共、其品々相分り申候、此類ハ下段礼も受候事ニ而候、
（右之外ニ着座之寺院ニ次第有之、上段ニ而受候類御座候、これは何れも少引下り候得共、常々之会釈、詞つかひハ、大形十七ヶ寺同然ニ而、差別無之候、為御心得之書付候、
（召出之寺院ト申候ハ、又一段引下り、これハ一門衆より下之者ニ而候、俗家ニ候得共一家一族位のものニ而候、然共、出家之義故、俗之一家・一族よりハ詞つかひハ少隔意ニ仕候、着座之寺院ハ、大形ハ一門衆位ニあしらひ、十七ヶ寺ハ一門よりハ上に置、相伴等申付候節も、同じ膳ニ而御座候、大体江戸表之東禅寺・瑞聖寺位、少計心を付ケ、国元之寺柄故、あしらひ申候、大かた上野之宝勝院など位ニ御あしらひ、能程ニも可有之候事、
（右之外ハ、不残下臣之会釈同然ニ而候、
（社家ハ、龜ヶ岡之上佐守初メ、何れも家中之平士同然之会釈ニ而候、

5代藩主伊達吉村が家督相続に際して嫡子宗村に書き与えた注意事項「諸士諸寺院覚書」（伊達家文書）の冒頭部分。家臣への対応について記す前に、寺社への対応を記している。なお、掲載に当たって、明確な誤字や当て字は通用の文字に修正した。

○寺領

- ・仙台北藩から知行地などの寺領や扶持、供養料を与えられる寺院があった。寺格を与えられた寺院の多くは寺領を与えられ、寺格を与えられなかった寺院でも、寺領や扶持を与えられることは少なからずあった。
- ・寺領の付与については、2代藩主忠宗以降、藩士に対して与えられるのと同じ日付で黒印状（4代綱村以降は朱印状）と知行目録が発給され、知行地の所在地と高が明示された。

御 一 門 格	仙法	岳蓮	院寺	天眞	台言	宗言	仙台市青葉区
	法定	禪手	院寺	眞言	言宗	言宗	塩竈市
	千竜	宝昌	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	東瑞	巖勝	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	満寛	範明	寺寺	臨濟	宗宗	宗宗	仙台市青葉区
	光瑞	鳳德	院院	臨濟	宗宗	宗宗	仙台市青葉区
	陽保	大年	寺寺	臨濟	宗宗	宗宗	仙台市青葉区
	大万	王勝	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	輪孝			眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
				眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
				眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
				眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
				眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
				眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
				眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
				眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区

御 盃 頂 戴 格	国分寺	頭學	眞言	台言	宗言	仙台市若林区
	新宮	福皇	臨濟	言宗	言宗	名取市
	資天	通仰	臨濟	言宗	言宗	仙台市青葉区
	円大	照量	臨濟	言宗	言宗	大和町
	寛海	無安	臨濟	言宗	言宗	松島町
	永大	梅麟	臨濟	言宗	言宗	松島町
	天靈	桃応	臨濟	言宗	言宗	大和町
	善善	松正	臨濟	言宗	言宗	松島町
	正法		曹洞	言宗	言宗	松島町
			曹洞	言宗	言宗	仙台市泉区
			曹洞	言宗	言宗	仙台市青葉区
			曹洞	言宗	言宗	仙台市青葉区
			曹洞	言宗	言宗	仙台市青葉区
			曹洞	言宗	言宗	仙台市青葉区
			曹洞	言宗	言宗	仙台市青葉区
			曹洞	言宗	言宗	仙台市青葉区
			曹洞	言宗	言宗	仙台市青葉区

着 座 格	竹遍	駒照	寺寺	眞言	台言	宗言	岩沼市
	弘誓	宝光	院院	眞言	言宗	言宗	仙台市若林区
	国分寺	別当	眞言	言宗	言宗	言宗	名取市
	昌伝	庵主	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市青葉区
	泰心	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	妙心	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	林香	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	宗禪	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	大満	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市太白区
	大滝	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市太白区
	江沢	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市太白区
	長泉	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市青葉区
	永徳	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	裁松	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	金ヶ崎町
	洞雲	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	保壽	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	光大	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	大円	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	竜蔵	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	利府町
	眞臨	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	愚鈍	院院	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市青葉区
	成覚	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	善導	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	正衆	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	東漸	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	阿弥	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区
	仏眼	寺寺	眞言	言宗	言宗	言宗	仙台市若林区

召 出 格	満願	寺寺	眞言	台言	宗言	仙台市青葉区
	法泉	院院	眞言	言宗	言宗	石巻市
	金光	寺寺	眞言	言宗	言宗	平泉町
	誓願	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	長安	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市太白区
	観音	寺寺	眞言	言宗	言宗	石巻市
	寂光	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	大聖	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	薬本	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	宝徳	寺寺	眞言	言宗	言宗	大崎市
	清水	寺寺	眞言	言宗	言宗	栗原市
	小松	寺寺	眞言	言宗	言宗	大崎市
	八幡	寺寺	眞言	言宗	言宗	大崎市
	普誓	寺寺	眞言	言宗	言宗	石巻市
	栄法	寺寺	眞言	言宗	言宗	大和町
	宝泉	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市太白区
	華足	寺寺	眞言	言宗	言宗	登米市
	満福	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市若林区
	定光	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	洞仙	寺寺	眞言	言宗	言宗	松島町
	満興	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市泉区
	法常	寺寺	眞言	言宗	言宗	岩沼市
	大徳	寺寺	眞言	言宗	言宗	登米市
	瑞雲	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市若林区
	永昌	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	寿徳	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	長祥	寺寺	眞言	言宗	言宗	登米市
	黄金	寺寺	眞言	言宗	言宗	栗原市
	宝積	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市泉区
	竜島	院院	眞言	言宗	言宗	村田町
	大年寺	松濤院	眞言	言宗	言宗	仙台市太白区
	大年寺	大千院	眞言	言宗	言宗	仙台市太白区
	大年寺	大幻庵	眞言	言宗	言宗	仙台市太白区
	大年寺	少林院	眞言	言宗	言宗	仙台市太白区
	大年寺	心定院	眞言	言宗	言宗	仙台市太白区
	万寿寺	三昧院	眞言	言宗	言宗	仙台市宮城野区
	大願	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	莊嚴	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	円城	寺寺	眞言	言宗	言宗	利府町
	充国	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	正円	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	正雲	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市若林区
	昌繁	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	慈恩	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市宮城野区
	円鏡	寺寺	眞言	言宗	言宗	栗原市
	称安	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	大徳	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市若林区
	恩慶	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	称念	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市青葉区
	法運	寺寺	眞言	言宗	言宗	仙台市若林区

1日6分/人

切米: 現金

一貫文=10石

1人3分

- ・寺領について寺院が有する権利は、年貢の徴税権のみで、耕作者に対する人格支配や、その土地の行政権は藩の支配下にあった。この他、藩が境内と認めた範囲については藩への祖税納入が免除されていた。
- ・一部の寺社は、その門前町において、住人への役の賦課、町政への一部関与などの特殊権益を藩から許されることがあった（東照宮・仙岳院と宮町、大崎八幡宮と八幡町、東昌寺と東昌寺門前 等々）。
- ・寺領の他に、藩から切米（現金）や扶持米、定例となっている法事や祭礼、施設の維持費、人件費などの名目で玄米などを支給される寺院もあった。例えば仙台北下経ヶ峯の瑞鳳寺は、寺領 296 石の知行地（瑞鳳寺分 120 石、塔頭 6 院に各 16 石、「御掃除之者」5 人に各 16 石、塔頭の思敬庵に 50 石）のほか、瑞鳳殿・感仙殿・善応殿・青龍院殿の「御仏備料」としてそれぞれ年間に玄米 15 石が藩から支給されていた。

寛永 21 年（1644）に 2 代藩主伊達忠宗が寺院に宛てて出した黒印状と知行目録の例。この時、仙台北下経ヶ峯では同じ日付で藩上に対して、も知行宛行の黒印状を出している。

松嶋山寺領之事
宮城郡高城松嶋村・赤沼村
於両村、合式拾四貫文之所、
令寄附之訖別紙在 此外米拾五石
内 六石毎月廿四日入用 六石毎年五月廿四日
入用 三石毎年七月施餓鬼入用也
五拾石方丈、扶持方七拾石十三
塔頭下行、但一ヶ所三人扶持方分也
右永代不可有相違者也、仍状如件、
寛永廿一甲年
八月十四日 忠宗（黒印）
瑞岩寺納所

知行目録
名取郡沖野村之内
一貫七百文 横堀屋敷 惣左衛門
右之通、御臺印之面、村付代高、割渡申
者也、仍如件、
寛永貳拾陸年 和因幡（印・花押）
八月廿四日 山口内記（印・花押）
奥山大学助（印・花押）
富塚内蔵頭（印・花押）
昌傳庵

八幡社領之事
一拾貳貫五百文 龍宝寺
一七貫八百十四文 祭礼常灯料
一壹貫五百廿五文 玉灯院
一壹貫五百六十文 別当
一壹貫五百廿四文 泉照院
一壹貫五百廿四文 蓮乗院
一壹貫七百四十二文 東光院
一壹貫五百十八文 竜城院
一四貫三百卅七文 禰宜拾貳人分
一貳貫八百廿五文 流鏑射手四人分
一壹貫五百廿五文
右、玉作郡下目村宮城郡國分荒卷村
於両村、合三拾六貫八百八十文之所、
寄進之訖別紙在 読経・祈念・掃地・
勤行、不可有怠慢者也、仍状如件、
寛永廿一甲年八月十四日 忠宗（黒印）
龍宝寺住持

昌傳庵領之事
於名取郡沖野村、貳貫
七百文之所、寄附之訖別紙在
如前々、読経・仏法・掃地・勤行、
不可有怠慢者也、仍如件、
寛永廿一甲年八月十四日（黒印）
昌傳庵住持

○仏教の宗派統制

- ・藩内の寺院は、宗派ごとに「触頭」「僧録」等と称される寺院が統括し、各宗派の総本山や「総触頭」、藩との連絡・調整、宗派内の自律的管理にあたっていた。例えば曹洞宗の場合、各寺院の住職は僧録四ヶ寺が候補者を審査し、適格と認定した者を藩（担当は寺社奉行）へ推挙し、藩は僧録四ヶ寺の判断に従って住職人事を認可していた。⇒ 仙台藩の「触頭」「僧録」制は研究が少なく、不明な点が多く、今後の研究が望まれる

天台宗 : 「総触頭」の仙岳院が藩内の天台宗寺院を統括

真言宗 : 「触頭」の龍宝寺・千手院・定禅寺が藩内の真言宗寺院を統括

曹洞宗 : 輪王寺・松音寺・泰心院・昌伝庵が「僧録四ヶ寺」として藩内の曹洞宗寺院を統括

浄土宗 : 善導寺と大願寺が「触頭」に任じられており、このうち大願寺が「藩内在方」の「触頭」だったとされ、善導寺は仙台北下の「触頭」だったと推定される

浄土真宗 : 正楽寺（東本願寺派）が「僧録司」、称念寺（西本願寺派）が「触頭」だったと伝える

時宗 : 真福寺が「触頭」だったと伝える

仙教 → 時の神、なる

本地垂迹

○神社の統制

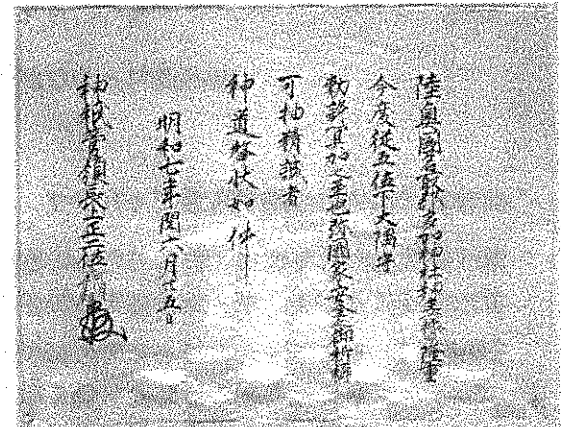
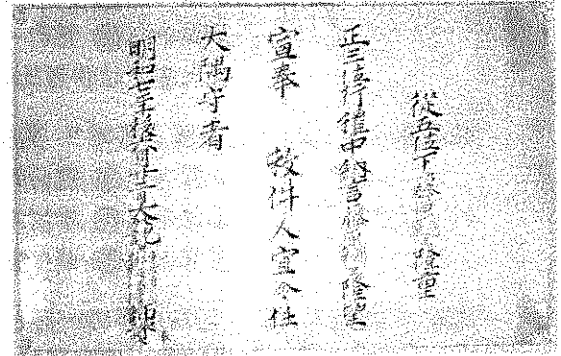
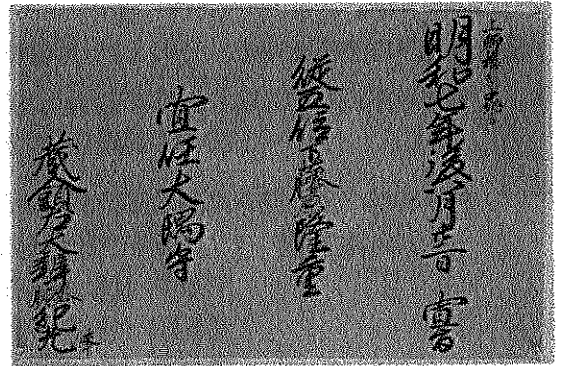
- ・明治時代以前、日本の神は仏教の仏が姿を変えて日本に現れたとする本地垂迹・神仏習合の考え方が広まっており、ほとんどの神社は神宮寺や別当寺と称される多くは天台宗や真言宗の寺院と一体になっていた。

(例)	東照宮	→	仙岳院 (天台宗)
	塩竈神社	→	法蓮寺 (真言宗)
	亀岡八幡神社	→	千手院 (真言宗)
	大崎八幡神社	→	龍宝寺 (真言宗)
	熊野新宮社	→	新宮寺 (真言宗)

- ・仙台藩の神社政策も、別当寺に与える寺領に神職(社家)や祭礼に要する者を加えるなど、別当寺を通じて行われた。
- ・一方で各神社は、朝廷から官位官職を与えられたり、幕府から全国の神職の管理権を与えられた京の吉田家(卜部家)神職として位や着用する衣服の種類を認めてもらうなど、京との関係を持ち、また総本社との関係も継続させていた。
- ・仙台藩は、幕府との関係で東照宮を領内の神社の最高位に置いたが、実際は古くから伊達氏の守護神である亀岡八幡神社、陸奥国の一宮である塩竈神社を重視していた。

⇒ 仙台藩の神社については、個別神社の研究はあるが、藩政の中での位置づけは、不明な点が多い

名取市の多賀神社に伝わる古文書。朝廷から与えられた口宣案や位記、卜部家からの文書などが残り、地域の神社の事例として貴重 (写真提供: 名取市史編さん室)



5. 仙台北下の寺町

○仙台北下の形成と寺町 (その1) 北山の寺院群

慶長6年に仙台北下の建設が始まると、北山付近には多くの寺院が配置され寺町が形成①。しかし、一気に整備されたのではなく、開府から約40年間をかけて徐々に寺町としての姿が形成される

- ・東昌寺 奥州街道が突き当たる場所に開府後すぐに移動してきたと推定
- ・輪王寺 慶長7年5月に岩出山から北山に移転
- ・覚範寺 仙台北開府当初は愛宕山麓にあったが、後に北山に移転
- ・光明寺 慶長9年に伊達郡から北山に移転
- ・称安寺 浄土宗。慶長14年に建立
- ・満勝寺 元和3年(1617)に伊達郡から北山に移る ⇒ 寛文年間に北八番丁に移転
- ・寂光寺 真言宗。もとは信夫山にあり、北山には寛永15年(1638)ころまでに移転
- ・資福寺 開府当初は東六番丁にあり、寛永15年に北山に移る(寛永10年とする伝えも)
- ・秀林寺 曹洞宗。輪王寺の末寺で、寛永18年に創建
- ・大法寺 浄土宗。慶長13年に大町で創建され、万治2年(1659)に北山に移転
- ・安楽寺 浄土宗。元和2年に本材木町と北材木町の境に創建され、後に北山に移転。廃寺

【参考】「北山五山」とは? ⇒ 「(仙台北)五山」の語が、近代以降「北山五山」に転化したものと推測される

- ・北山にある伊達家ゆかりの5つの禅宗寺院を指すとされ、東昌寺、光明寺、覚範寺、資福寺は共通するが、残り一つを輪王寺とする説と、満勝寺(北山から移転)とする説の二つがあるが、仙台北藩が「五山」の制を定めたこととはなく、江戸時代の資料にも「北山五山」の語は見えない。

- ・『仙府神社仏閣案内記』(文政元年=1818年)は、東昌寺、光明寺、覚範寺、資福寺、満勝寺に「五山」と注記する ⇒ 「北山五山」ではなく、仙台北下の「五山」の意。

○仙台北城下の形成と寺町（その2） 元寺小路、新寺小路と新坂通

- ・元寺小路 ② 初期の仙台北城下の北東端 = 鬼門除けの意図があり、神社や密教系寺院を配置（定禅寺、満願寺、大聖寺、梁川今八幡神社=後に移転して亀岡八幡宮 など）

- ・新寺小路 寛永年間に整備か。仙台北城下草創期に城下の町人町にあった寺院などが移転
～東九番丁 ③ （元寺小路から移ったと言われることもあるが、誤り）

円徳寺（㊟ 新伝馬町→） 金勝寺（㊟ 南町→） 久近寺（㊟ 北目町→）
愚鈍院（㊟ 南町通→） 正雲寺（㊟ 大町→） 成覚寺（㊟ 大町？→）
善導寺（㊟ 大町→） 大徳寺（㊟ 北目町→） 東秀院（㊟ 小田原→）
洞林寺（㊟ 荒町→） 正楽寺（浄土真宗 日辺→）
東九番丁は伊達氏ゆかりの寺院（遍照寺・栽松院・光寿院・阿弥陀寺）が配される

- ・新坂通付近 ④ 元来は葬送の地？ 寛永年間に城下の町人町などにあった寺院が移転して寺町を形成
充国寺（㊟ 国分町→） 正円寺（㊟ 肴町→） 莊嚴寺（㊟ 本材木町→）
昌繁寺（㊟ 本材木町→） 大願寺（㊟ 立町→） 大法寺（㊟ 大町→）
宝泉寺（㊟ 米ヶ袋→）

- ・荒町・南鍛冶町 ⑤ 若林城下の一部として寛永4、5年頃に成立
伊達家とゆかりが深い寺院 = 昌伝庵（尚宗三男久松丸の菩提寺）、泰心院（植宗正室
蘆名氏の菩提寺）、仏眼寺（6代基宗が開基）
郊外農村とつながりの深い寺院 = 満福寺（毘沙門堂）、東漸寺

○仙台北城下の寺町は防御施設だったか？

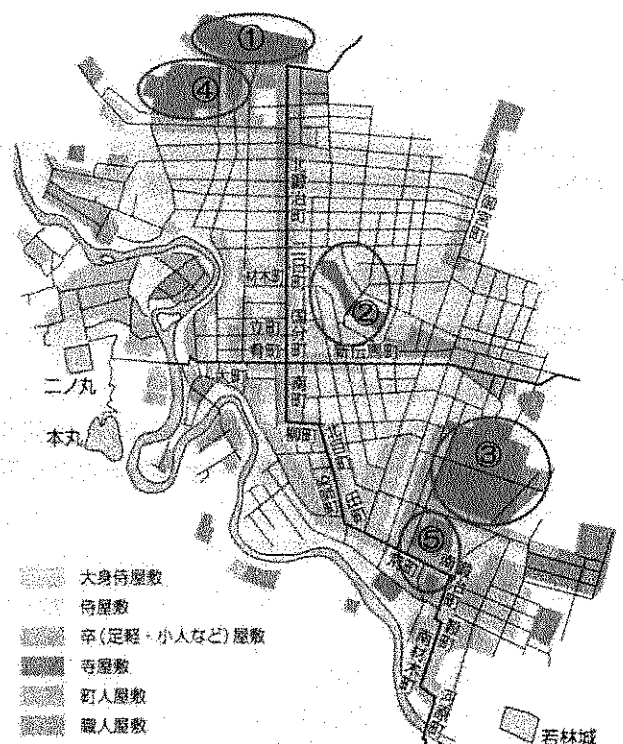
城下町における寺町は、防衛のための役割があると言われることが多いが、仙台北城下の場合は疑問。

【理由1】 仙台北城下における寺町の形成時期は、軍事面の考慮の優先度が低くなる元和年間以降、寛永年間半ばであり、軍事面を重視する必要がある江戸時代初期に寺町の形成は十分ではない。

【理由2】 仙台北城下の場合、敵の侵入を最も警戒が必要な南側に寺町が形成されていない。

【理由3】 新坂通や新寺小路の寺院の多くは、大町などの町人町にあったものが後に移転
= 城下町の再開発事業の中で城下町周辺部に移されたと考えられるべき。

仙台北城下の寺町の配置（『仙台北市史 通史編 近世』掲載の図に加筆）



おわりに

- ・寺社の歴史については、個々の寺社の由緒はともかく、総合的な研究は十分に進展しているとは言えない。
- ・現代的な宗教感覚で江戸時代以前の寺社や信仰を理解しようとする傾向には注意が必要。
⇒ 例えば、一つの家は一つの宗派、菩提寺や墓は一つ、墓には必ず墓石がある・・・
（支倉常長の墓は複数の候補があるが、当時の支倉クラスの人物は墓が分かることはごくごくまれ）
- ・オカルト的な解釈や陰謀説の多くは小説的発想や現代的関心に基づいたもので、当時の社会状況や宗教意識と照らし合わせ、慎重に評価する必要がある（面白そうな話は、後世のでっち上げが多い）。